

(様式6-1)事後評価シート

番号	6		事業名	広域河川改修		市町村名	大町市		路河川名	(一)農具川	箇所名(ふりがな)	白塩(しらしお)				
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○当河川は、仁科三湖(青木湖、中綱湖、木崎湖)を源流とし、水田地帯から大町市の住宅地を流下し高瀬川へ合流する、延長17.2km、流域面積69.0km<sup>2</sup>の一級河川である。</p> <p>○昭和58年9月の台風10号による豪雨により、当該未整備区間において、床下10戸、農地冠水3.0haの被害が発生した。</p> <p>○これを受け、昭和63年から平成20年を目標とし、補助事業として広域河川改修に着手した。</p> <p>○また、魚類の種類及び生息数は大町市内を流れる他の河川と比べ多いことが特徴であるため、昭和50年代から、魚類の専門家(学識経験者)からの助言の他、北安中部漁協や中央水産研究所、県水産試験場と協議を行いながら工法を検討し整備を行っている。</p> <p>○なお、当事業区間の上流は、圃場整備に併せて実施した局部改良事業、県単河川改修事業、下流では小規模河川改修事業により整備されている。</p>													事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
	②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	<p>○カワシンジュガイ(大町市指定天然記念物:S62.3)、アユ、ウグイ、コオイムシなどの魚介類や水生生物などの生息環境の改善が図られた。なお、地域の方からは、カワシンジュガイやホタルが増えたと評価されている。</p> <p>○水際部に杭柵や空石積を施工したことにより、自然環境が復元するとともに、親水性が向上した。</p> <p>○河川の流下能力向上により、流域周辺住民の民生の安定が図られ、宅地が増加した。</p>											A			
事業目的	<p>○昭和58年9月の台風10号による豪雨において浸水被害が発生したこと、また、沿川は宅地化が進んでいることから、当事業区間における浸水被害の解消を図るため、10年に一度の降雨に対する治水安全度を確保し、75～90m<sup>3</sup>/sの流下能力を持つ河川断面へ改修することとした。</p> <p>○魚類等の自然環境に配慮した整備が求められており、自然環境に配慮した工法により改修することとした。</p> <p>○なお、当該事業に関連し大町市では第3次総合計画(H13～H22)に河川環境の改善を位置付け市民団体に補助金を助成し一体的に整備を行った他、第5次大北地域ふるさと市町村圏計画(H14～H23)には、当該事業が位置付けられ、地域からの期待が寄せられていた。</p>													施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
	③施設の維持管理状況	<p>○県では、河川維持工事(草刈り等)や河川パトロール等必要な維持管理を行っている。</p> <p>○「農具川河川美化委員会(H12～)」の他、「白塩町河川公園愛護会(H23～)」により、草刈りや植栽等の維持管理が行われている。</p> <p>○平成12年度以降、大町第一中学校による河川清掃が実施されている。なお、この清掃活動は、平成25年7月、長野県河川協会から「河川関係功労者表彰」を受賞している。</p> <p>○長野県建設業協会(大北支部)と建設事務所が協働して、草刈り作業を行っている。</p>											A			
事業概要	当初工期	S63～H20	費用対効果(当初時)	—	事業費(千円)	財源内訳(千円)						④地域住民等の評価	<p>地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)</p> <p>○「白塩町河川公園愛護会」からは、「5月のシバザクラが咲く時期には多くの観光客等が来て綺麗な河川公園であることを観てもらえるが、反面、マスコミの取材も多く駐車場が足りず、駐車場整理等に苦勞している点や、河床上昇、樹木の繁茂により草刈等の作業が大変である。」との意見をいただいている。</p> <p>○「農具川環境美化委員会」からは、「環境改善によりカワシンジュガイやホタルの確認が増えた、ツツジやアヤメを植栽して春の観光名所化が図れた一方で、年1回の定例的な草刈等では間に合わないため、秋にも自主的に草刈等を行っている。また、構成員が高齢化しているため活動が大変になってきている」との意見をいただいている。</p> <p>○「大町西小学校」からは、「生物の棲みかの学習をしたり、皆で泳ぐことができ楽しい」といった意見をいただいている。</p> <p>○「大町第一中学校」からは、「水が透き通っていて綺麗だが、ゴミが多い、特定外来種(オオキンケイギク)が多い」といった意見をいただいている。</p>			
	最終工期	S63～H21	費用対効果(評価時)	4.4	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源							
	当初計画内容(主な工種)	護岸工L=1400m				2,180,000	1,090,000	—	981,000	109,000						
	最終事業実績(主な工種)	護岸工L=1400m				1,882,000	941,000	—	846,900	94,100						
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>○事業最終年度の整備となった市道橋(下花見橋)の架け替えにあたり、仮設通路の用地交渉及び、橋台に近接する家屋の出入り口の調整に時間を要し、竣工が平成21年7月となったため。</p>													⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	<p>事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)</p> <p>○「白塩町河川公園愛護会」では、高水敷を利用したシバザクラ公園を整備しており、約5,000本の花を咲かせる5月は、春の風物詩となっており、テレビや新聞で紹介されている。</p> <p>○「農具川河川美化委員会」をはじめ地域住民により、ツツジやアヤメ等が植えられ、憩いの場、散策路となっている。</p> <p>○「大町西小学校」では、平成25年に4年1組の総合学習の時間として自然観察のフィールドとして活用された。</p> <p>○「大町第一中学校」では、主に3学年による河川清掃が行われている(平成27年は7月2日に実施)。</p>	評価
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>○当初、河川の線形について、蛇行を少なくし直線的な計画としていたが、片側のみの拡幅や元の河川の蛇行を生かした拡幅とするなど、用地取得面積を削減したことにより事業費が縮減された。</p>													改善措置の必要性	<p>○水際等の環境に配慮した杭柵工において、経年劣化により一部(建設後、約10年が経過した箇所)が破損しており、修繕や新設時には、使用材料等について検討の必要がある。</p>	評価
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)										評価	<p>改善措置の必要性</p> <p>○水際等の環境に配慮した杭柵工において、経年劣化により一部(建設後、約10年が経過した箇所)が破損しており、修繕や新設時には、使用材料等について検討の必要がある。</p>				
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○治水安全度1/10とし整備したことから、改修前流下能力が、46.6m<sup>3</sup>/s から 75～90m<sup>3</sup>/s に増加した。</p> <p>○保全対象である、人家172戸、道路2.1km、農地51haの浸水被害軽減が図られた。</p> <p>○整備完了後、平成22年～平成26年の豪雨による出水では、浸水被害は発生していない。</p>											A			
	間接的効果(定量的・定性的)	<p>○流域周辺住民の安全・安心が高まった。</p> <p>○治水安全度の向上により、保全対象人家が、事業導入時の96戸から、現在では172戸へ増加した。また、要配慮者利用施設が新たに建築されたほか、農具川河川公園(シバザクラ公園)が整備された。</p> <p>○魚介類、生物、植生などの自然が回復し、小学生の自然観察のフィールドとなった。</p> <p>○水際の環境が改善されたため、地域の方の意識が高まり、河川環境の整備が行われている他、地域の方の新たな癒やしの河川空間が創出された。</p>											今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>○環境に配慮した工法の検討にあたり、学識者からの指導・助言の他、地元漁協、水産試験場と協議を行い進めたため、良好な河川環境の復元が図られた。</p> <p>今後の河川整備にあたっては、関係者との十分な意見交換や学識者からのアドバイスなど、幅広く知識を得ることが必要である。</p> <p>○維持管理の面において、本河川では「農具川環境美化委員会」等が環境整備を行い良好な状態が保たれているが、参加者の高齢化が進んでいるため、今後、持続可能な河川維持管理に向けて、行政、自治会、企業、市民団体等の連携を検討していく必要がある。</p>		
										部意見	<p>○事業の実施により流域住民の安全・安心が図られ宅地化が進んだほか、環境に配慮した工法の採用により、植生の回復や魚類等の生育環境の保全が図られており事業効果は高い。</p>					
										行政改革課意見	治水安全度が向上したほか、自然環境の保全が図られ、事業の目的を達成している。					